

愛恵だより

第 16 号

2025 年 9 月 25 日 発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団
〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル5F
電話：03-5961-9711(代) / FAX：03-5961-9712
<https://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による



共に重荷を負い、みことば(聖書)に応える

「起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」(ルカによる福音書5章24節)

公益財団法人 愛恵福祉支援財団
評議員 秋 間 文 子

聖書をどう読むかは、他の書物同様、読者に任されていて、言葉が右から左へ通り過ぎてしまうことも多くあるかと思います。話の流れに気を取られ、一言の重みに気づかないこともよくあります。私は1990年に教会に赴任して以来、説教の任を託されてきましたが、言葉の深みを改めて教えられることがしばしばあります。

ローズンゲン(邦訳『日々の聖句』)という聖句集があります。ドイツのヘルンフト兄弟団が発行している聖書日課で、くじで選ばれた旧約聖書の1節に合わせて新約聖書の聖句が選ばれ、ドイツ語版では、それに合わせた讃美歌・祈りなどが添えられます。それを友人が訳して送ってくれまして、その3つを合わせて読むことで、聖句の読み方を教えられています。

7月17日の箇所は、エレミヤ書17章14節「主よ、私を癒やしてください。そうすれば私は癒やされます。私を救ってください。そうすれば私は救われます。」との言葉でした。癒しと救いを願い、確信を頂くのは、自分一人の中でなされるように思っていますが、選ばれた新約聖書は、「起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」(ルカ5章24節)という箇所でした。主イエスに癒していただくために体の不自由な人が床に乗せられ運ばれてきたけれども、人が多くて中に入れなかったのも、友人が家の屋根を剥ぎ、主の前に床ごとつり下ろした場面です。今日では体の不自由な人を配慮し介助することは当然とされていますが、病人が虐げられることの多かった当時、友人たちは重荷を共に負っていく覚悟を決めていたのでしょう。苦労も多かったであろうと想像します。

主イエスは彼らの信仰を見て、病人に「起き上がりなさい」と言いました。彼はその声を友人たちの中で聞くのです。主イエスなら癒してくれると信じている友人と主イエスとが共にいてくださるから、彼は立ち上がる力を与えられたのでしょう。立てない人に「起き上がりなさい」と命じるのも不思議で、主イエスが両

脇を抱えて起き上がらせてくれる良いのに、そうではなく、自分で起きよう命じるのです。「出来ない」と言って起きなければそれまでですが、たとえばすかでも「主イエスを信じよう」という思いがあれば、主はそれを用いて、癒してくださるのです。友人と、また主イエスと共にいることで、彼の内にある疑いも不信仰もその輪の中に取り込まれ、共有され、主に憐れまれ、赦され、贖われたのです。「自分の罪」が「人間誰もが持つ罪」となり、さらには、「主によって赦された罪」となるのです。

立ち上がった人を友人が我が事のように喜んで、一緒に家に帰っていった様子が浮かびます。ルカ福音書には「あなたの信仰があなたを救った」という言葉が4箇所も出てきますが、「あなたがたの信仰が彼を救い、あなたを救った」と主が言っているのではないかと想像いたします。

神様の言葉、聖書の言葉を共に聞く場が、教会です。共に聞くことで聖書が重要な言葉として響いてくるのでありまして、あの病人同様、周囲の人の祈りと、神様がふさわしく癒してくださるという信仰に支えられて、御言葉を聞く思いが与えられるのです。このローズンゲンの言葉を教会の方と友人に、毎日オンラインで配信しています。長思いの方には何度も手紙を書いていると、かける言葉が無いと思うこともありますが、人の思いを超える神意としての聖句を毎日贈ることができるのは、ローズンゲンならではの事です。人知を超えた癒しと救いを願いつつ、その方との交わりが続けられますことは、御言葉のおかげです。

愛恵福祉支援財団が社会福祉の担い手と各団体・施設を祈りつつ支える活動は、共に重荷を担いながら御言葉を聞き、応えていくことそのものでありましょう。財団の働きと覚える団体・施設の上に、その働き人の上に、主の御祝福をお祈りいたします。

(日本基督教団茅ヶ崎南湖教会牧師)

命の水を、手掘りで汲みだす スラムの職人たちとつないだ希望の深井戸

アフリカモザンビーク エспанサオン共同水場兼避難施設の深井戸設置活動

イスラム過激派の紛争が激化するモザンビーク北部カーボデルガド州。その州都ペンバ市のスラム、エспанサオン地区。ここでは、水道がひかれていても、水が出ないのが日常です。タライを持って遠くまで水を汲みに行く子どもたち。貯水タンクを買うお金もなく、雨水や濁った水で日々をしのぐしかない家庭も少なくありません。

そんな場所に、2025年7月、きれいで安全な水がもたらされました。それは、スラムの職人たちが、自分たちの手で掘り上げた深井戸です。

愛恵福祉支援財団のご支援で、モザンビークのいのちをつなぐ会が整備を続けているエспанサオン共同水場兼紛争避難施設の敷地内に設置した深井戸。毎朝6時には作業を開始し、歌を歌いながら陽気に、鉄の棒で井戸の穴を掘りすすめていきます。岩盤に当たって棒が劣化すると、鉄職人のもとで研磨し、また作業を進めていく日々。手作業ならではの繊細な判断と、職人同士の信頼で、ついに3週間目に地中から透明な水が湧き出しました！子どもも大人も大歓声を上げお祭り状態、職人さんが彼らに水をふるまっています。

紛争による治安悪化と貧困の深刻化で、エспанサオン地区は強盗団も暗躍しており、水栓一個、バケツ

一個でも盗まれ、生死に関わる大きな事件も多発しているため、安全管理には今後も一層気を引き締めて、取り組んでいきたいです。

そして、この深井戸は、今後、タワー型給水塔や配水トラックと連携し、エспанサオン地区全体に安全な水を届ける中核となります。また、掘削を担った職人たちは、今後の水インフラ整備や修繕においても地域の“技術人材”として活動する予定です。

水を得るということは、命を得るということ。

「水を恵まれる」のではなく、みんなで「水を掘り当て、守る」。この深井戸は、エспанサオンの未来に希望の水をたたえ続けていきます。

一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会

代表理事 榎本 恵



井戸から地下タンクへの配管



深井戸掘削作業



陽気に歌いながら深井戸掘削作業



手で掘り上げた深井戸からバケツに水を汲む

特別助成

「復興」機材(ユンボ・油圧ショベル・軽自動車)を支援

能登震災 復旧から復興へ

2024年1月の石川県能登地方を震源とした地震は地理的に孤立している能登半島に大きな災害をもたらしました。現在も広範囲な被害とインフラに対し復興事業が行われています。

当財団も遠藤理事長、後藤常務理事が直接現地に赴き、被害の状況と求められている支援の調査に当たりました。

輪島市で民間ボランティアセンター機能と並行し地域の生業再建に取り組んでいる「のと復耕らば」※代表の山本氏から、ボランティアによる復旧活動状況や今後の展望などをお聞きしました。



「のと復耕らば」山本代表、飯さんと後藤常務理事

これからの復興事業で必要とされる重機(ユンボ・油圧ショベル)と軽自動車購入にあてる特別助成金の支援を行いました。

その後の豪雨被害の復旧にもユンボ、軽自動車が活躍されていると報告を受けています。

財団では人々が助け合い、支え合って幸せな生活を創造できる一助となるよう、能登半島地震により被災した施設等への助成を2025年度も行ってまいります。

※「のと復耕らば」は「土の中(土着の文化)を掘り起こすこと」、「新たな空気(風)をいれること」から命名されています。



2025年7月輪島市内の状況
まだ復興への道のりは遠い

助成事業
実施の案内

2025年度 助成事業Webで受付中 【8月1日(金)～9月30日(火)】

1. 助成対象

当財団の助成事業は社会福祉事業（福祉施設の運営、福祉活動 ①子どもたちの健全な育成 ②地域コミュニティの活性化 ③社会的弱者に対する活動 ④被災などで見えてきた課題に対する活動 ⑤国内における国際的活動など）を行う民間の団体が必要とする設備・備品類に対し助成します。

申し込み者は原則として非営利の法人であること（ただし法人でなくても2年以上の継続的で組織的な活動を行っている任意団体は対象とする）。

2. 助成内容

- 1) 助成総額 2,500 万円
- 2) 1団体当たり 30 万円を限度とする。（事業運営に必要な設備・備品の購入に対する助成）

※詳しくは愛恵財団ホームページ「2025年度 助成金公募のお知らせ」をご覧ください。➡



2025年度 ペイン記念奨学金 受給者決定

社会福祉実践分野のリーダーとしての人材育成を目的とし、日本の大学院に在学する学生に年間100万円を限度として授業料相当額及び研究補助費年間10万円を奨学金として給付しています。

2025年度の新規受給者は以下の5人です。

● HNさん 大阪公立大学大学院 博士前期課程2年

研究のテーマ

「児童虐待等で児童相談所でのケアを受けられなかった子どもたちへの支援体制がどうなっているのか、またどうあるべきか」

● MOさん 立教大学大学院 博士前期課程1年

研究のテーマ

「矯正施設出所者等を対象とした集団での余暇支援の在り方について」

● TSさん 立教大学大学院 博士後期課程2年

研究のテーマ

「現代日本における『若年女性支援』」

● ADさん 日本女子大学 博士後期課程3年

研究のテーマ

「子ども虐待の被虐待経験をもつ成人と自殺」

● MKさん 日本社会事業大学大学院 博士前期課程1年

研究のテーマ

「地域における『対話型福祉教育』の展開—社会福祉協議会等の実践にみる『媒介者』の機能—」

2025年度 第27回 愛恵エッセイを募集します

テーマ 豊かな福祉社会を創るために — 失くしたくないもの —

応募締切 2025年11月14日(金)必着

対象

1. 学生の部：在学中の方ならどなたでも。
2. 専門職の部：福祉・医療関係の仕事に従事している方。
3. 一般の部：どなたでも。
4. 外国籍の部：日本で就労、就学中の方（日本語表記に限ります）

文字数 1,600～2,000字
(外国籍の部のみ400～2,000字)

体裁

東京YMCAホームページよりダウンロードした応募用紙をご使用ください。手書きの場合、黒ボールペンで400字詰めA4横書き原稿用紙5枚。

応募方法

原則、応募先メールアドレス宛に電子メールに作品を添付し、東京YMCA会員内部「エッセイ募集係」に送信してください。

メール添付が困難な場合、東京YMCAホームページの応募用紙と作品を応募先住所までご郵送ください。

問合せ／応募送付先

東京YMCA会員部内「エッセイ募集係」

E-mail: kaiin@tokyoyymca.org

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館6階

Tel. 03-6278-9071

2024年度

第26回 愛恵エッセイ賞 受賞作品集 頒布

2024年度 第26回 愛恵エッセイ賞の受賞作品集を頒布いたしますので、ご希望の方は、財団事務局までご連絡ください。



愛恵福祉支援財団 案内図

JR駒込駅 東口より徒歩2分

北区中里2-6-1 愛恵ビル5F

電話 03(5961)9711

